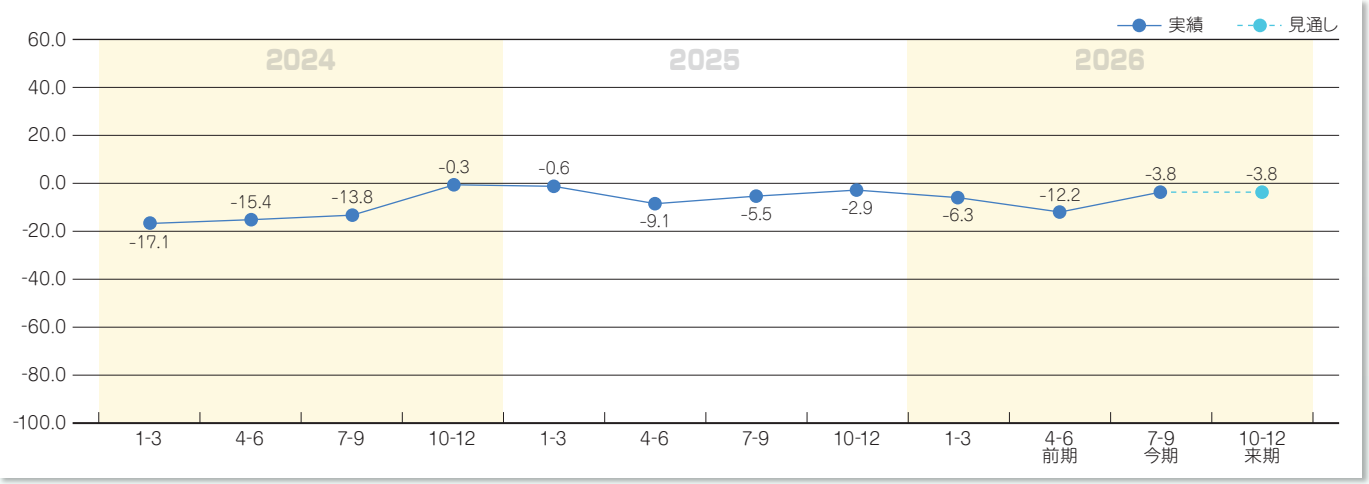
地域の景気動向 | 2026年9月調査

全業種　回答数314社

今期の業況D･Iは、前期比8.4ポイント上昇の▲3.8と、3期ぶりに改善。業種別では、製造業、卸売業、建設･不動産業で改善した一方で、小売業、サービス業では悪化した。来期の予想業況D･Iは、▲3.8と横ばいの見通し。業種別では、製造業、小売業は改善、サービス業は横ばい、卸売業、建設･不動産業は悪化の見通し。

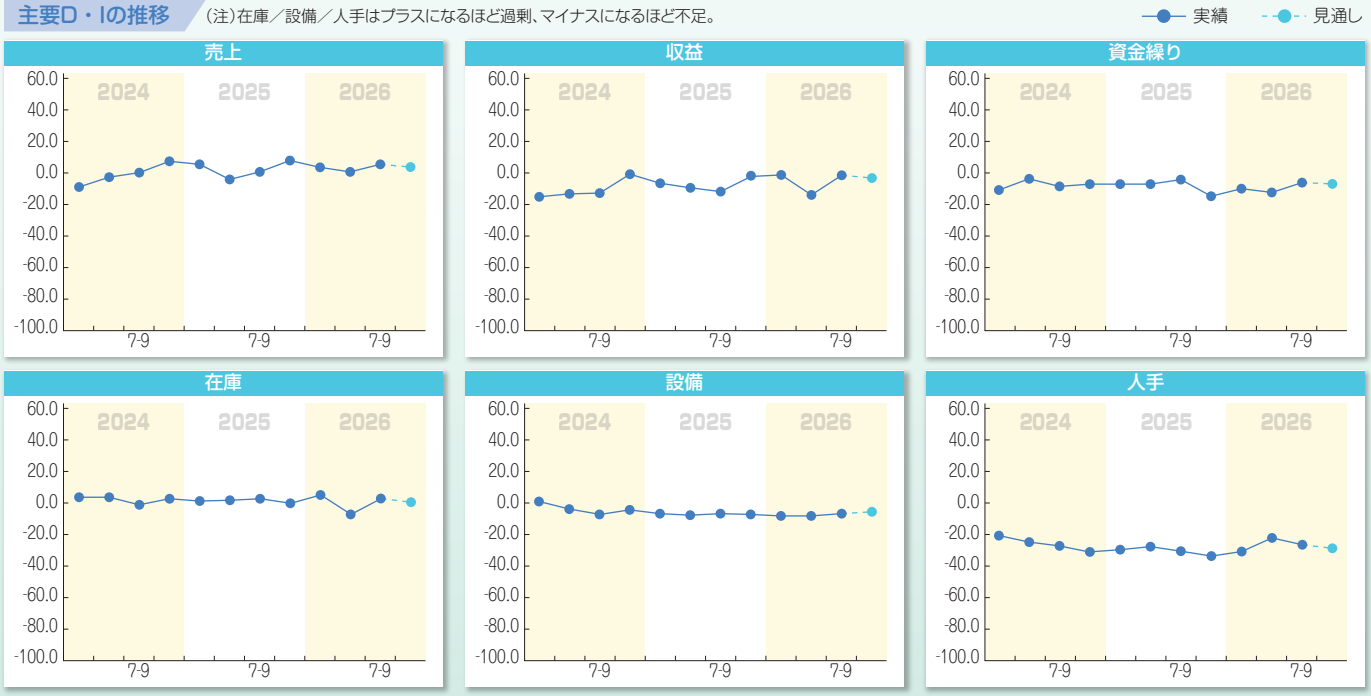
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



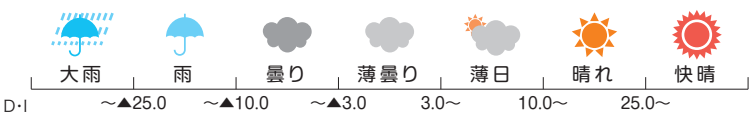
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

- 実施時期　2026年9月1日～7日
- 対象企業　314社
- 対象地域　西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

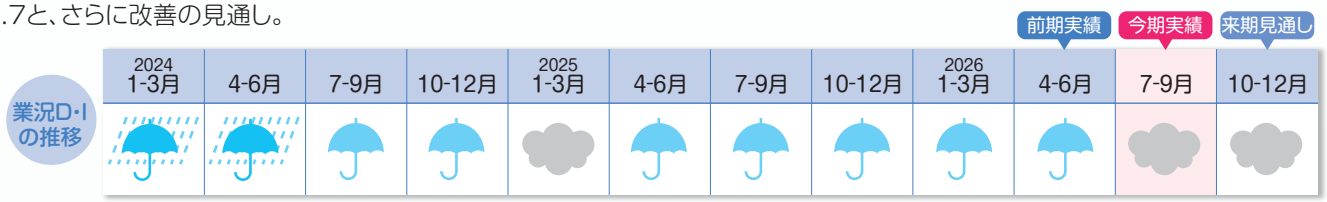


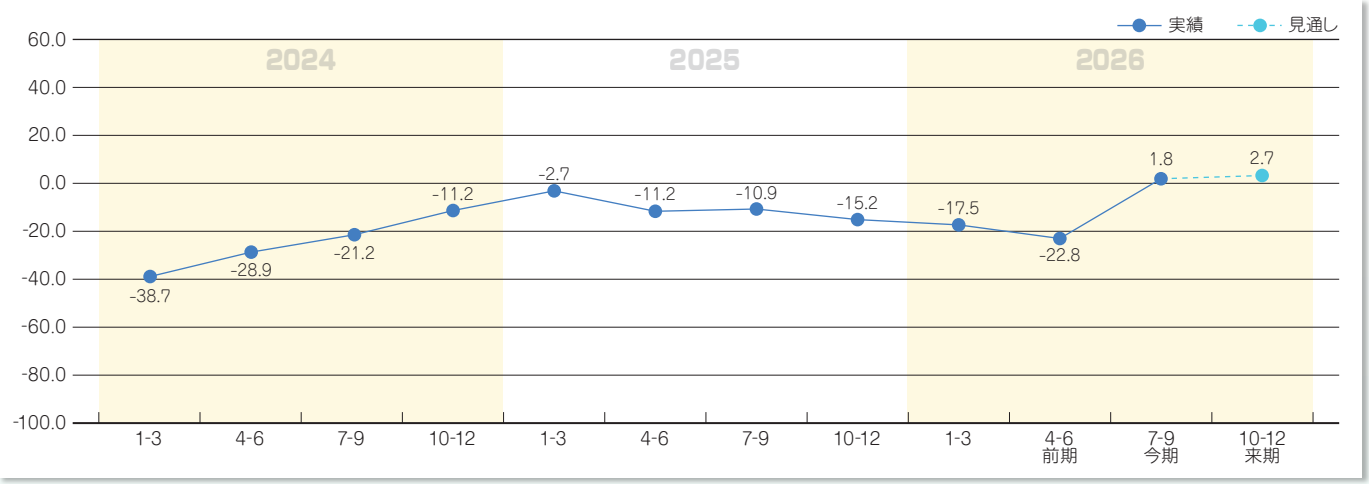
D･I(ディフュージョン･インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、〈良いまたはやや良いと答えた割合〉－〈悪いまたはやや悪いと答えた割合〉で求められます。

製造業

回答数１１０社

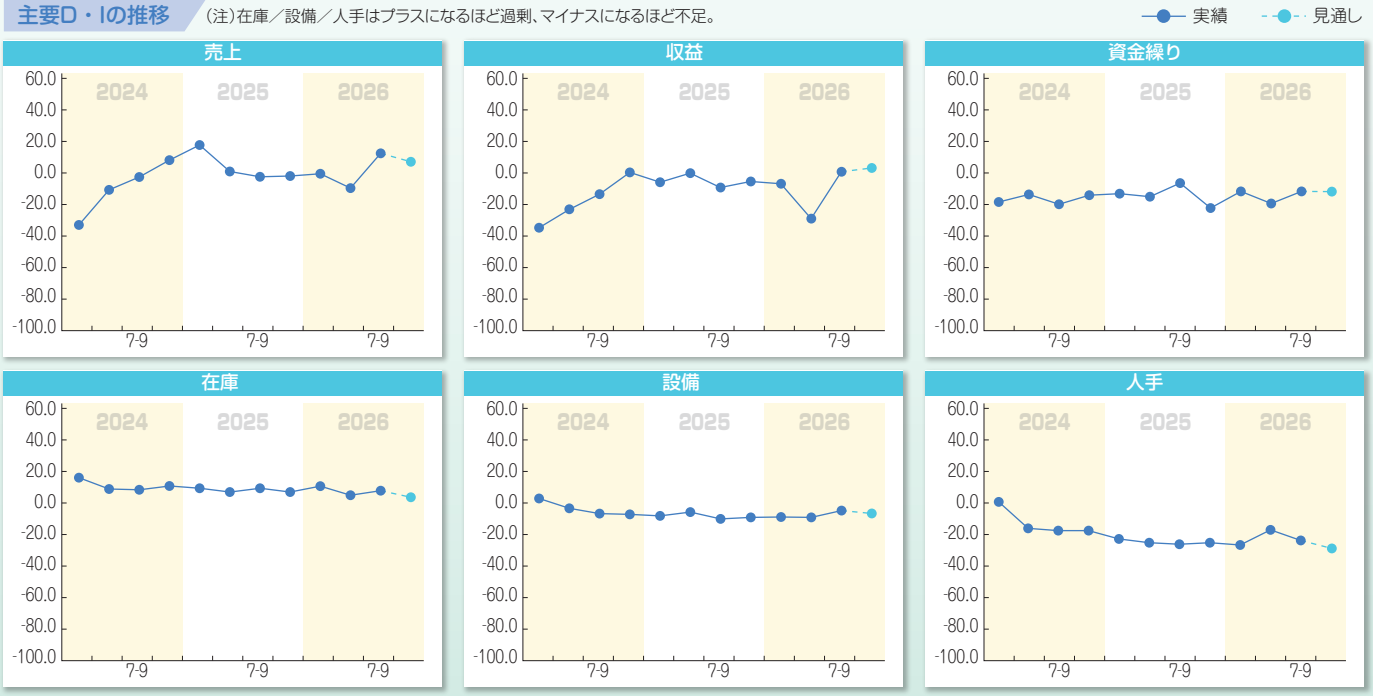
今期の業況D･Iは、前期比24.6ポイント上昇の1.8と、4期ぶりに大幅に改善。コロナ禍以降、初めてプラスに転じた。原材料価格の上昇は続いているが、価格転嫁の進展などにより売上D･I、収益D･Iともに大幅に改善。来期の予想業況D･Iは、0.9ポイント上昇の2.7と、さらに改善の見通し。





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



●物価高騰に対する取引先からの支援もあり、好調。(自動車部品製造)

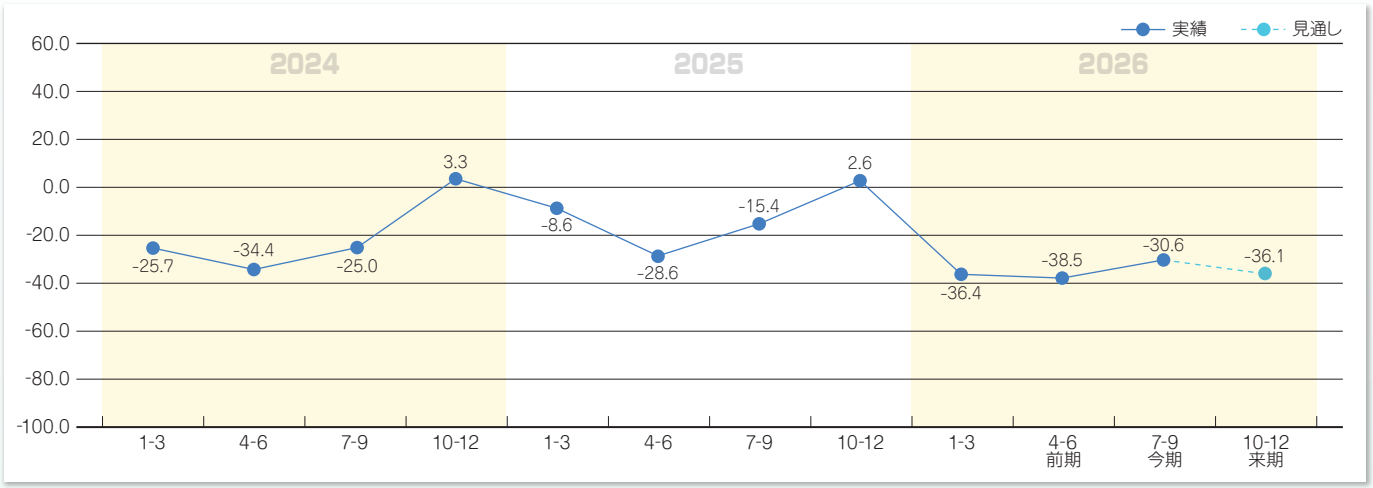
●愛知･名古屋アジア競技大会関連で製品を納品し、売上増加。今後も、イベントや行事関係のアメニティ等の仕事を受けていく。(繊維工業)

●中東情勢の影響が非常に大きく、受注が一時停止していた。販路を広げることで取引先の分散を図ることを検討しなければならない。(金属加工)

卸売業　回答数36社

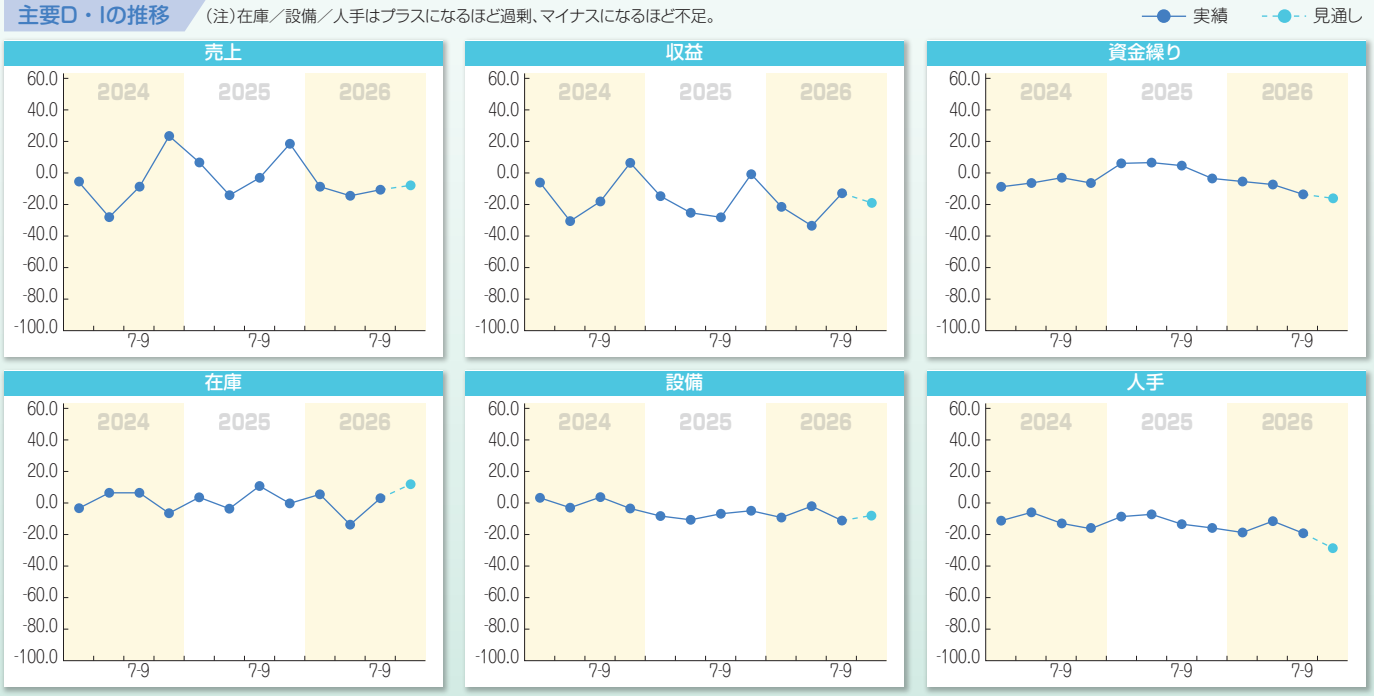
今期の業況D･Iは、前期比7.9ポイント上昇の▲30.6。3期ぶりに改善したものの、低水準での推移が続いている。仕入価格上昇により利益が圧迫されているといった声が多く、物価高への対応に苦慮している企業が多いことがうかがえる。来期の予想業況D･Iは5.5ポイント低下の▲36.1と、悪化の見通し。





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



●物価高により仕入値が上昇。今後、売上･利益の減少が予想される。価格転嫁や、収益構造の見直しを図る。(建設資材等卸売)

●石油価格の変動による売上の増減が見られる。季節要因もあり、現状の資金繰りは厳しい。(石油ガス卸売)

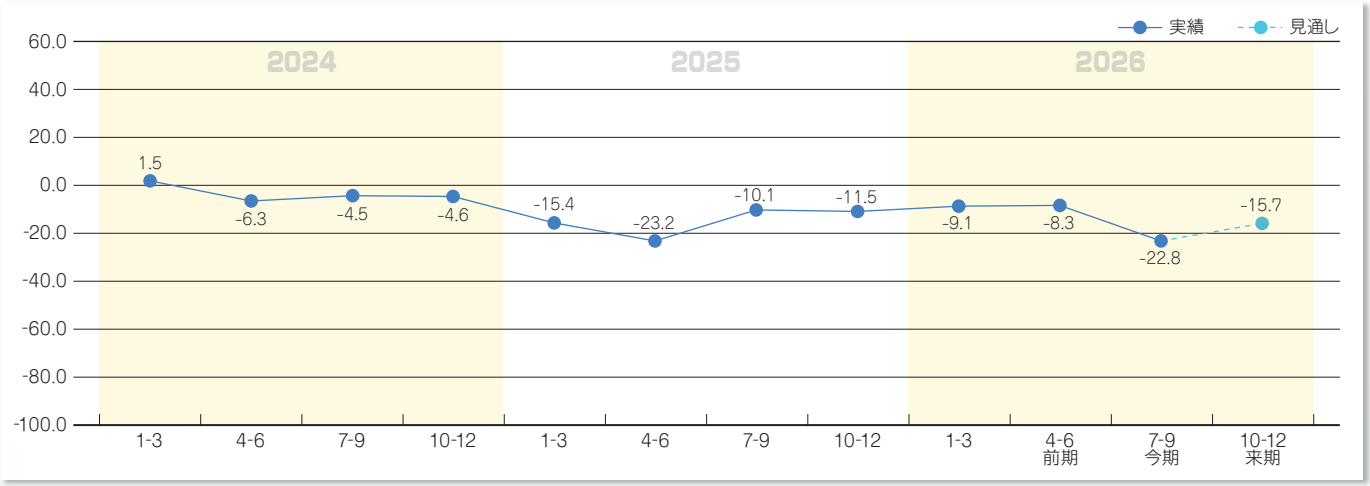
●業況は安定して推移している。人材確保が課題。(食品卸売)

小売業　回答数57社

今期の業況D･Iは、前期比14.5ポイント低下の▲22.8と、3期ぶりに悪化した。物価高の影響が続いており、価格転嫁や業務効率化など、収益性の改善が課題との声が聞かれた。来期の予想業況D･Iは、7.1ポイント上昇の▲15.7と、改善の見通し。売上D･I、収益D･Iともに改善を見込んでいる。

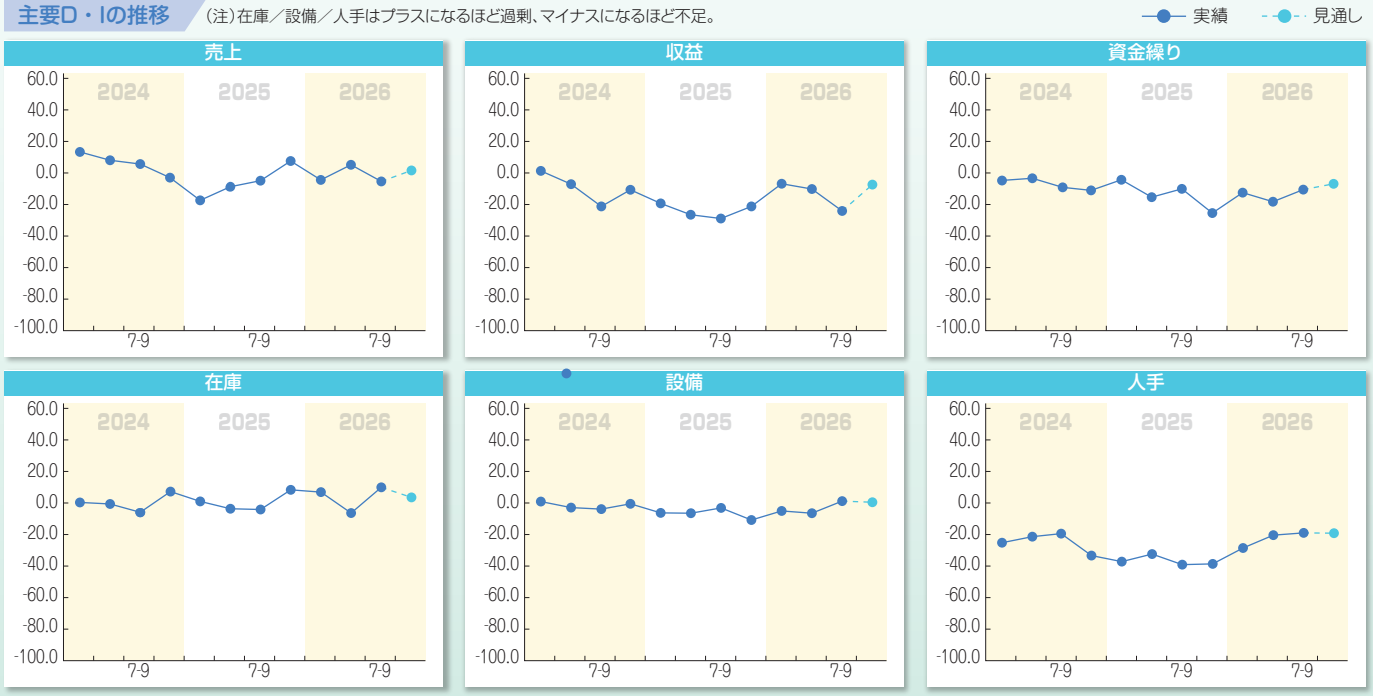
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。





●物価高騰や中東情勢の影響があり、売上および収益が減少。生成AIを活用した業務効率化に積極的に取り組んでいる。(自動車販売)

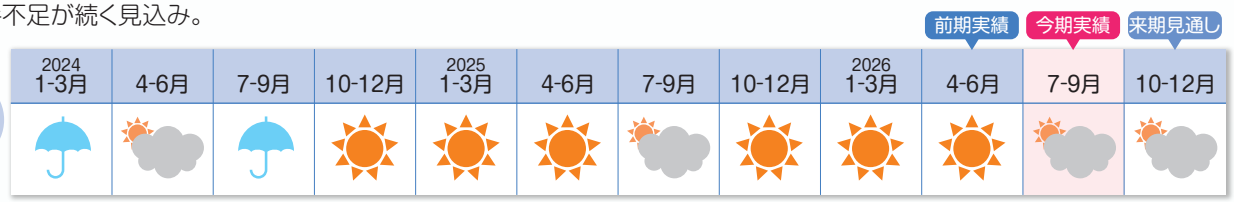
●仕入価格上昇分の価格転嫁は段階的に行えているが、最低賃金上昇による人件費増加が不安。また、食料品の消費税が1%になることがどう影響してくるのかが分からないため、経営面に不安を感じている。(食品販売)

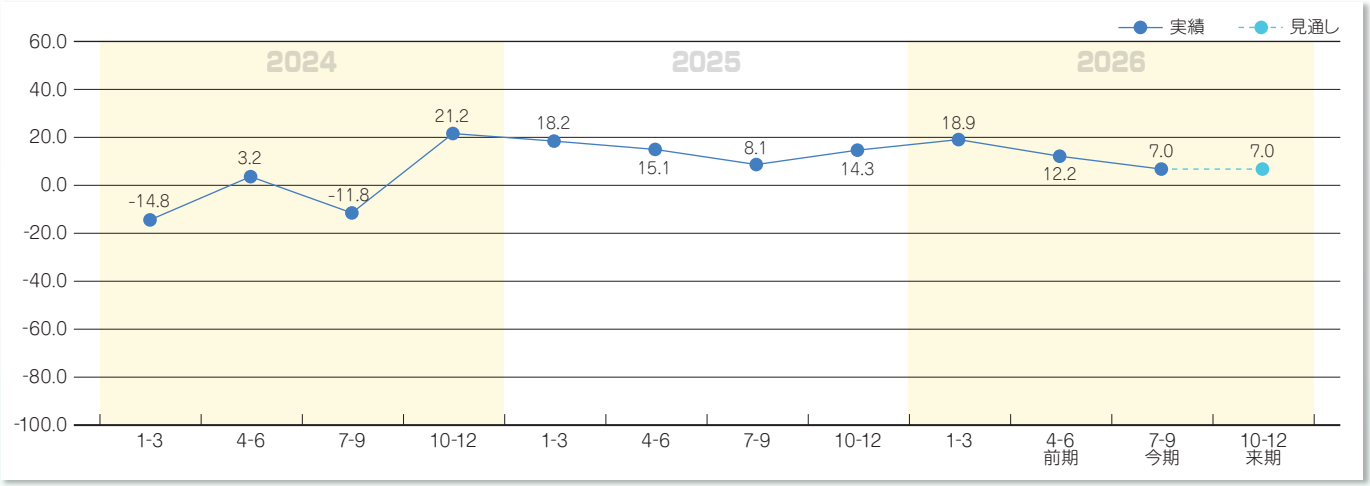
サービス業

回答数43社

今期の業況D･Iは、前期比5.2ポイント低下の7.0。2期連続で悪化したものの、8期連続でプラス水準となった。物価高の影響を受けているとの声もあり、売上D･I、収益D･Iは悪化したが、ともにプラス水準を維持。来期の予想業況D･Iは7.0と、横ばいの見通し。依然として人手不足が続く見込み。

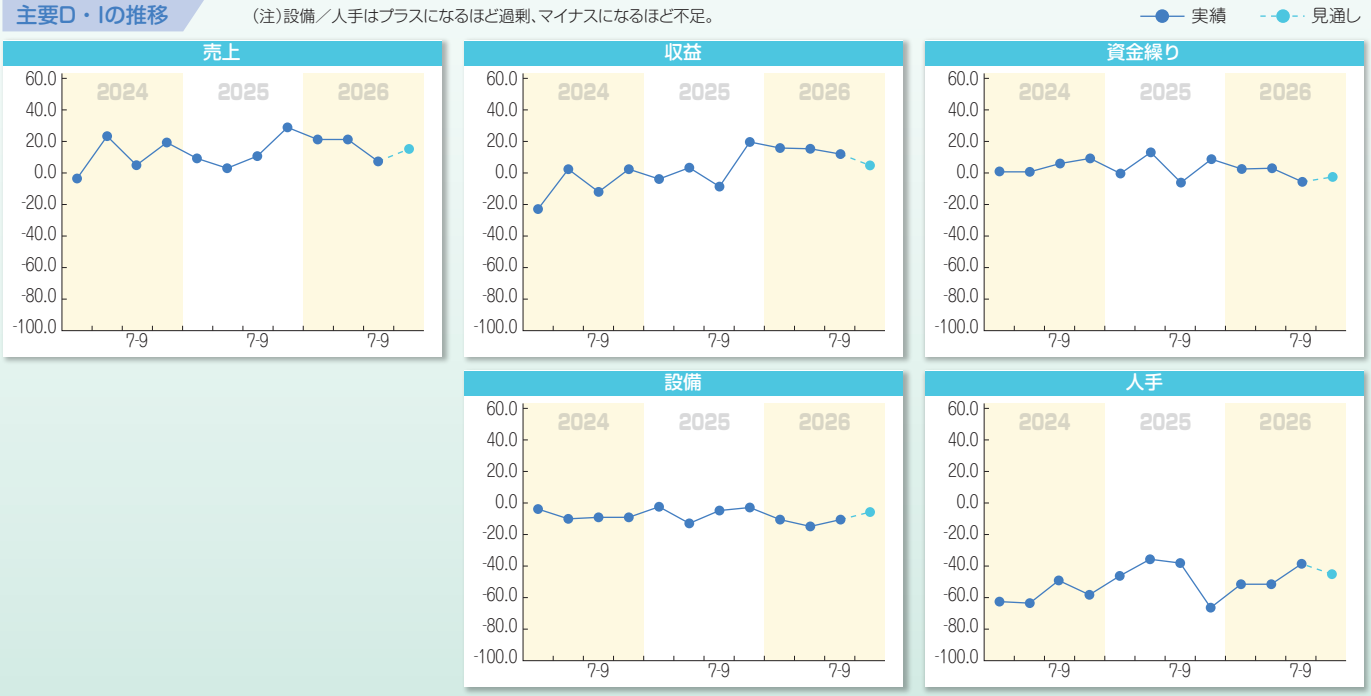
業況D･Iの推移





主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



●業況は安定している。代表者が営業に出ていることが多く、経営に重きを置くためにも人材確保が課題。(自動車整備)

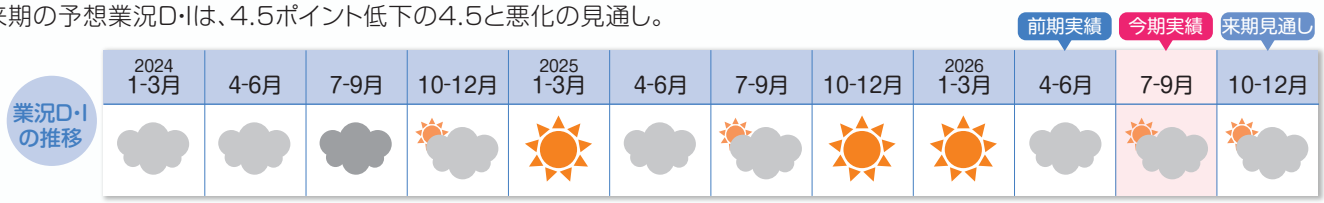
●材料費の高騰により売上が減少。今後は、技術力を高めることで売上を伸ばしていく。(クリーニング)

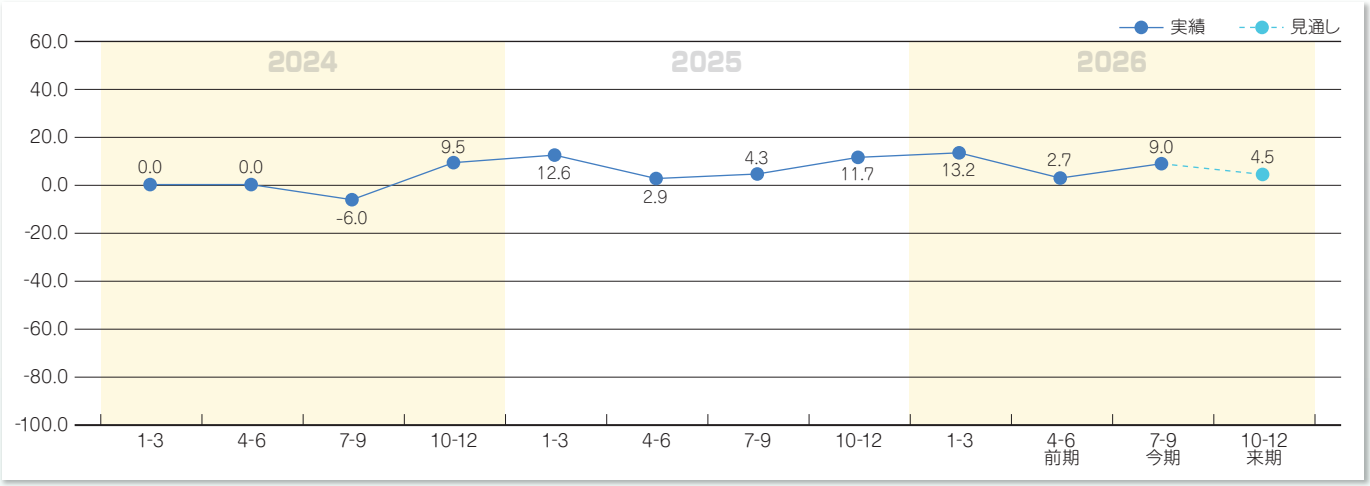
●中東情勢の影響で、ナフサを原料とするラップなどの消耗品の仕入が難しいことがある。(理美容)

建設・不動産業

回答数67社

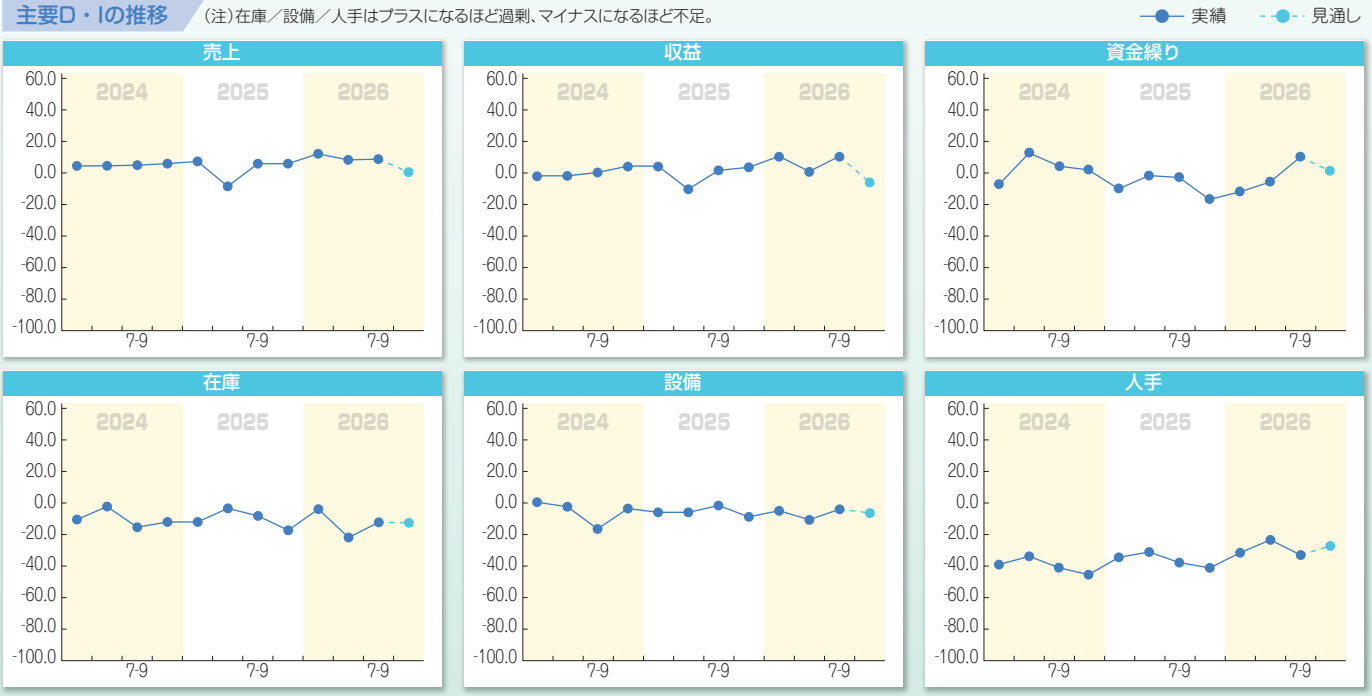
今期の業況D･Iは、前期比6.3ポイント上昇の9.0。8期連続でプラス水準となった。業況が安定している企業が多い一方で、物価高の影響や人件費増加などにより収益が圧迫されているとの声もあった。また、建設業では人手が不足しているとの声が多い。来期の予想業況D･Iは、4.5ポイント低下の4.5と悪化の見通し。





主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。





●足もとの受注は安定しているが、原材料価格上昇分の価格転嫁や人手不足が依然として課題。（土木･建築）

●新築工事の受注が減っているので、ストック需要を開拓している。（設備工事）

●新システムを導入し、業務効率化に着手。費用が増加しているなかで一定の利益を確保している。（不動産分譲）